

Peshawar-kai

ペシャワール会報

ペシャワール会事務局
〒810-0023 福岡市中央区警固
2-1-17 ハイツみかげ803号
TEL 092 (731) 2372
FAX 092 (731) 2373

No.129

2016年10月5日

〈URL〉 <http://www1a.biglobe.ne.jp/peshawar/>

〈E-mail〉 peshawar@kkh.biglobe.ne.jp



表紙絵 ザフリ／画・甲斐大策

今秋から広域かつ大規模な事業展開

中村 哲

果樹園を造りサトウキビも栽培

セカンダール

PMSの事業は大地に残る

モハマド・ファヒーム

アフガニスタンで初仕事——自分たちの仕事が誰のために、何のために

東 達也

●カラー特集 多角的な事業展開

ペシャワール会は、1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々への理解を深めていきたいと願っています。

今秋から広域かつ大規模な事業展開 「緑の大地計画」の仕上げ——ミラーン堰対岸工事と研修所の設立

PMS（平和医療団・日本）総院長／ベシャワール会現地代表 中村 哲

皆さん、お疲れさまです。

今年には異例に長い夏の帰国で、暑い暑いと言っているうちに、秋になりました。やっと現場に戻れますが、日本列島の気候も、ずいぶん以前と変わってきていることを思い知りました。熊本地震に次いで、集中豪雨、一転して極端な少雨、大型台風、河川の氾濫と、まるで現地アフガニスタンの大自然を見るような思いでした。温暖化をめぐり、少しずつ私たちの訴えが理解されるようになってきていると思えました。

ミラーン堰と対岸の工事

さて、今秋から今冬にかけての工事は、例年以上に広域にわたって行われます。今秋は、ミラーン堰の仕上げに区切りをつけ、その対岸、コーティ、タラーン、ベラ、カ

チャレイの村々で、八・六kmにわたる大規模な護岸工事が始まり、最上流では取水堰の建設が行われます（5ページ図参照）。

この工事は各方面とも協力して、四年がかりで行われます。「緑の大地計画」の仕上げであると同時に、その後の広域展開に向け、人員養成を行うことに、大きな意義があります。

また、これまで近づけなかった対岸（クナール河左岸）のベルト地帯全域が作業地に入り、カシコートからカマ地域まで、クナール河沿い約三〇km、両岸から自在にアプローチできます。両岸からの作業は日本では当然ですが、今まで両岸の仲が悪く、片側だけから無理な工事を進めることが多かったのです。これで河川工事や取水堰建設が非常に円滑に行われることになり、将来の維持改修を考えると、このこと



クナール河左岸（ミラーン堰上流対岸）の洪水流入路の護岸堤2.4km。今秋この上流にマルワリード第二堰の建設が開始される

は更に重要です。実は建設だけでなく、むしろ維持改修の方が根気も努力も要るからです。次に述べる研修所で、この点を実際に学ぶことを主眼の一つとしています。

研修所の準備

研修所の設立も、大きな課題です。今秋にはFAO（国連食料農業機関）やナンガラハル州の地域行政とも協力し、将来に向けて建築が始まります。しかし、大切な



2003年マルワリード用水路建設開始から長年共に働いている職員及び作業員たち。ミラーン土砂吐き建設現場（2015年10月末）



マルワリード堰。対岸カシコート堰と連続し505m。両堰とも取水量は安定している（2016年8月24日）



今夏の洪水で移動して来た砂州。ベスード第一堰上流。秋から堰と共に改修工事を開始する

は中身です。

当方では、先ずPMS職員を「現場の先生」として更に訓練し、次第に他地域の人々を受け入れていく方針を採っています。これまで、地域参加が徹底しないと無責任に流れやすく、根づかないという、過去の苦い体験があるからです。

もう一つの特徴は、徹底した現場での訓練です。技術者は往々にして、頭の中で卒業してしまい、設計図と測量だけで全てで

きると錯覚しがちです。取水設備の構造は一時間で学べますが、実際に作るのは五年かかります。現場で働ける者を増やすことがカギになります。PMSは研修所を「実働部隊の養成所」と位置づけ、時間をかけて築きたいと考えています。

既設の取水堰の改修

PMSはこれまで、クナール河沿いに八カ所、カブール河本川に一カ所、取水堰を

建設しました。しかし、年々改良され、最近のカシコート連続堰、ミラーン堰が最善のものとなっています。

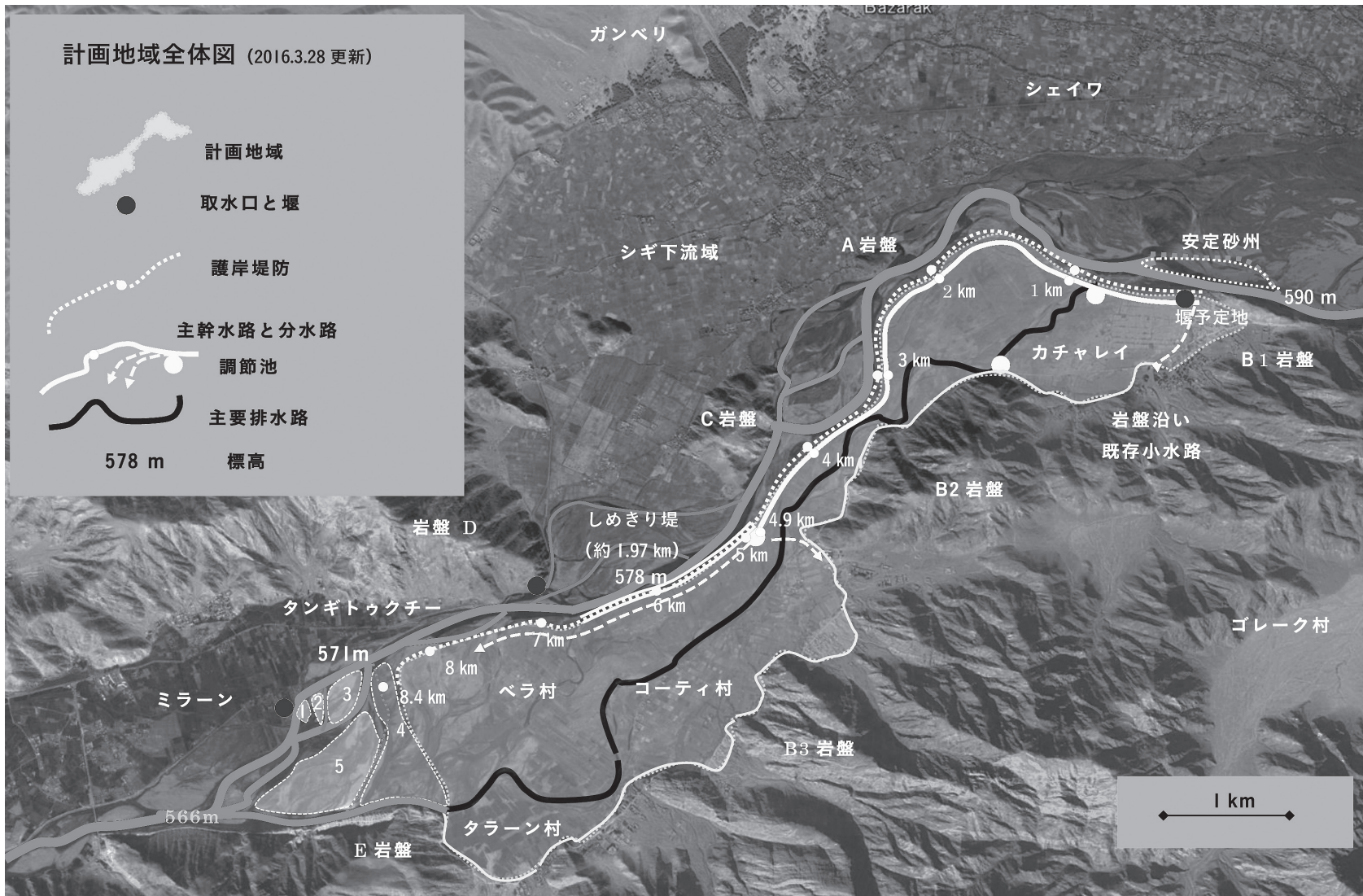
現在問題となっているのが河道変化、砂利堆積、砂州移動です。クナール河のような急流河川では運命的なものです。取水堰前後の河道が安定しないと、安定した取水ができません。一〇一六年度を皮切りに、ひとつひとつ改修を施し、耐久性のあるものにしていく予定です。



ひと夏の洪水を経たミラーン堰。堰や河道、砂州の観察後、秋より改修工事が開始される（2016年8月30日）



ミラーン堰上流対岸の旧取水路と消滅した農地。小規模ではあっても、このように、洪水流入後荒廃する農地が絶えなかった。しめきり堤2.4km地点（2016年7月）



マルワリード用水路Ⅱ計画地域全体図 (2016年10月より着工予定)



グリーントリを収穫中の家族（ミラーン村、2016年8月）

二〇一六年・秋の陣

こうして今秋と今冬は、ミラーン堰を仕上げて区切りをつけ、対岸に主力を集中、その最上流で取水堰（マルワリードII）の造成を開始します。

同時並行でバスロッド第I堰とカマ第II堰の改修を行い、ガンベリ排水路網の整備、PMS農場の開墾はペースを落とさずに進められます。おそらく今冬が、今までにな

く広域、かつ大規模なものとなります。

*

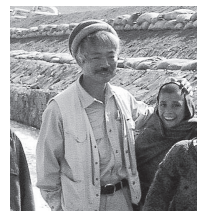
アフガン報復空爆から一五年、「緑の大地計画」が始まって一三年が経ちました。この間、対テロ戦争、内戦の泥沼化、アラブの春、民主化運動とその挫折、欧米主要都市での爆破事件、危険情報の氾濫、過激組織の世界拡大、……もう、まっぴらです。「テロとの戦い」を声高に叫ぶほどに、犠牲者が増えました。そして、その犠牲は、拳をあげて戦を語る者たちではなく、もの言わぬ無名の人々にのしかかりました。干ばつに斃れ、空爆にさらされ、戦場に傭兵として命を落とす——アフガン農民たちの膨大な犠牲は、今後も語られることはないでしょう。

私たちは、このような人々にこそ恩恵が与えられるべきだとの方針を崩さず、現在に至っています。多くの良心的な人々の支持を得て、事業は着実に進められてきました。PMSは、誰とも敵対せず、仕事を進めて参ります。

際限のない話ですが、決して賽の河原ではありません。長年の努力によって、次の飛躍に向けて、確実に見通しを得ようとしているからです。これまでのご厚意に感謝し、事業が氷河の水の尽きるまで継続され

ることを祈ります。

平成二八年九月一五日 記



中村 哲：九州大
学医学部卒。専門
は神経内科（現地
では内科・外科も
こなす）。国内の
病院勤務を経て、

一九八四年パキスタン・カイバル・パクトゥンクワ州（旧北西辺境州）の州都ベシャワールに赴任。ハンセン病コントロール計画を柱にした、貧困層の診療に携る。八六年からはアフガン難民のための事業を設立し、アフガン北東山岳部に三つの診療所を開設。九八年には基地病院PMSをベシャワールに建設。また病院・診療所で患者を待つだけでなく、パキスタン北部山岳地帯の診療所を拠点に巡回診療も開始した。二〇〇〇年以降は、アフガニスタンを襲った大干ばつ対策のための水源確保（井戸掘り・カレーズの復旧。作業地千六百余カ所以上）事業を実践。さらに〇二年春からアフガン東部山村での長期的復興計画「緑の大地計画」を開始。〇三年三月からは灌漑水利計画に着手し、一〇年三月全長約二五キロが開通した。ダラエヌール診療所の年間診療数四万二七二二人（二〇一五年度）。

【カラー特集】多角的な事業展開



ダラエヌール診療所を訪れたジア医師（左）にアドバイスを受けるアーベット看護師（2016年7月）



ミラーン排水路末端に交通路として掛けた橋が完成。奥には、護岸堤の補強と、今夏の洪水による堰の改修や研修所建設に使用する巨礫の蓄積が見える。河の水位が低下する秋から取りかかる。



ガンベリ農場のワークショップで主幹排水路用U字溝の鉄筋組みをする作業員たち



主幹排水路にU字溝を降ろす中村医師。1770mの主幹排水路工事は、ワークショップ（写真上）や石材採り等の段取りで、滞りなく進行中である（2016年7月）



主幹排水路建設中の職員及び作業員たち（2016年8月24日）



整地が始まった研修所建設地。9月中に鍍入れ式が行われる。左奥にミラーン堰の水門番小屋が見える（2016年9月）



左：PMSガンベリ農場でのナツメヤシ農園着工式（2016年4月）。在アフガニスタン日本大使館からの対アフガニスタン国「草の根無償資金協力」による



右：ナツメヤシ農園の開墾作業（2016年5月）。現在、給・排水路造成や農場から国道までの道路敷設、架橋工事が進められている



ミラーン用水路近辺の路上で余剰の野菜を売る農民たち。オクラ、玉ねぎ、ジャガイモが並ぶ

◎現地スタッフからの便り

果樹園を造り

サトウキビも栽培

PMS職員／トラクター運転手

セカンダール

発破チームに所属

私は、ナンガラハル州ソルフロッド郡バラバーク村出身のカラシヤールの息子でセカンダールと申します。

二〇〇三年四月七日、同州のアチン郡で日本の組織であるPMSが行っていた井戸掘削で働き始めました。井戸を掘っている最中、掘り進めないような巨石が現れた時は爆破して砕いていました。私はその発破作業チームに所属していました。ここでは、干ばつで畑も涸れて行き、清潔な飲み水の不足など、住民の大半が深刻な問題の影響を受けており、誰も清潔な水を手に入れることが出来ない状態でした。

我々は、ドクター中村の指導のもと、井戸を掘り飲料水を住民に提供しました。

またナンガラハル州のカクラック、ソルフロッド、ドラエヌール各地にも飲料用井戸を提供して住民の悩みを解決しました。

その後、私はドクター中村の推薦により水路事業の運転手に任命され、一生懸命に働きました。我々のチームは用水路の途上で岩山を通過する時、必要に応じて即席爆破装置（IED）を用いて破砕して用水路を通しました（注：発破作業はダイナマイト使用の許可取得が煩雑なため二〇〇六年停止、その後は岩山の砕岩にはジャックハンマーを使用）。

農業事業も成果あげる

現在、私はPMS農業事業に加わって作業をしています。ガンベリ沙漠の農園の土地を平らにして果樹園を造り、柑橘類・ザクロ・桃・杏^{あんず}などを栽培しています。続いて我々はサトウキビの栽培を開始、収穫したサトウキビを加工するなど、母国アフガニスタンの安定と繁栄のために奉仕しています。その結果、我々は素晴らしい事業と活動を成し遂げました。

私は、この事業を通じて私を支えて下さ

った日本人およびアフガン人のPMS職員
の皆さんに感謝しています。同時に、私は
これからも人々から敬愛されているPMS
で働き、奉仕し続けたいと願っています。
最大の敬意を込めて



ガンベリ沙漠開墾中のセカンダール運転手と農業班（2009年8月）

PMSの事業は大地に残る

PMS技師
モハマド・ファヒーム

国境の町トルハムの水問題を解決

私は二〇〇〇年九月より現場技師としてPMSで働いてきました。二〇〇〇年の大干ばつでアフガニスタン、ことに東部ナンガラハル州で清潔な水が不足した時期、ドクター中村率いるPMSは飲料用井戸の掘削を開始しました。私は技師として井戸に手動ポンプやコンクリート製エプロン設置を担当しました。最終的にPMSはナンガラハル州各地で一六〇〇本の井戸を掘りましたが、私はその全部にポンプとエプロンの設置をしました。

PMSはさらにパキスタンとの国境地トルハムバザールなど他地域でも井戸掘削を開始しました。水不足に陥った時、アフガニスタン側のトルハムではパキスタンから水を得るなどしていました。しかし水をアフガンに分けるかどうかは完全にパキスタ

ン次第で、アフガン国内では住民が多くの問題を抱えていました。

難民となり、国境を越えてパキスタン側に行こうとする人々も様々な問題に直面しました。

そこでドクター中村は、アフガン側のトルハムでも飲料用井戸を掘ろうと考えました。私は先生の指示でそこでの井戸掘りを監督しました。大型の貯水タンクに水を溜めるようにし、トルハムバザール全域に水を分配しました。これによりアフガン側トルハムの住民は隣国の水を頼らなくてもよくなりました。結果として、四本の井戸と四台の貯水タンクを作ってトルハムの水問題は長期的な解決をみました。

PMSの井戸事業は、干ばつのさなか、住民に就業機会を提供することにもなり、彼らは故郷を捨てることもなく、難民にならずにすみました。この事業はナンガラハルのほとんどの地域で実施されました。PMSはこの事業にとどまらず、一九九〇年代から診療活動をしていた山岳部のダラエピーチャやダラエワマ診療所も、ドクター中村の監督下で丈夫な診療所に建て替えました。



主幹排水路工事の現場監督はエンジニア ファヒーム (2016年8月30日)

日本人ワーカーと共に用水路建設

井戸掘削事業に並行し、用水路事業や農業事業など、干ばつ対策で必要不可欠な仕事が増えるにつれ、日本からたくさんの方がドクター中村のもとに集まって来ました。ドクター中村と日本人ワーカーそして我々PMS職員や地域住民が力を合わせて、マルワリード用水路を建設してクナール河の水をガンベリ沙漠まで通水し、同地

2017年カレンダー

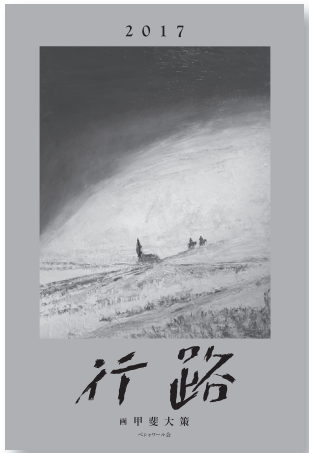
「行路」

画・甲斐大策

同封のハガキでご注文ください

A2判変形(画・7点)

定価 1500円(税・送料込)



今年も恒例のカレンダーを制作します。部数に限りがありますのでお早めにご注文下さい(ご友人・知人へのプレゼント発送も承ります)。

※代金は後払い。払込用紙を同封します

域で三〇〇〇ヘクタールの土地を潤しました。私は二〇〇〇年から二〇〇九年の用水路全長の通水まで、ドクター中村のもとでこの事業に参加しました。

この事業には多くの人が長期間従事しました。用水路通水後は、この水路によって土地に水が行き渡り、今では土地の価格が上がっています。同地域では人々の経済的生活にも変化がありました。その後も引き続きPMSはナンガラハル州シェイワ、ベスード、カマの三郡で、水路や取水口、護岸壁の建設を行っています。これにより農地の水害を防ぎ、住民に大きな恩恵を与え

ています。以前はこれらの地域では夏は洪水が起きて農地が多大な被害を受け、冬には河の水位が下がって水不足に悩んでいました。しかし、ドクター中村が確立した「PMS取水方式」によって、今では夏と冬の取水量が安定し、この地域では水不足の心配をすることはなくなりました。

PMSの次の事業を心待ちに

アフガンではこれまで多くのNGOが様々な建設プロジェクトを実施して来ましたが、長期的な成果を出したものはありませんでした。なかには建設したものの影も形

もなくなってしまうものもあります。

一方、PMSが行って来た仕事や事業は今も大地に残り、地域住民に長期的な恩恵を与えています。アフガンの人々はPMSに、殊にドクター中村のアイデアに感謝しています。干ばつに被災しているアフガン各地の人々はPMSの次の事業を心待ちにしており、いつでも自分たちの地域にPMSを歓迎する気持ちでいます。

アフガニスタン国民より、日本の皆様にお礼を申し上げます。 敬具

▼寄付をしてくださる皆さまへ

*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承頂きますよう、お願いいたします。

▼事務局移転のお知らせ

*二〇一五年五月に移転しました。
新住所：〒八〇一〇〇三三 福岡市中央区
警固二一―一七 ハイツみかげ八〇三号
(電話・FAXは変わりません)

▼未使用の切手、書き損じハガキ(官製ハガキ・年賀ハガキ)をお送り下さい

*引き出しの中などに眠っているものをお送りいただければ幸いです。会報発送等に使用していただき大変助かっております。なお、外国の切手は取り扱っておりません。

◎ワーカー通信

アフガニスタンで初仕事

——自分たちの仕事が
誰のために、何のために

ベシャワール会事務局・PMS支援室・現地連絡員

東 達也

川の変化

何故、秋になると葉が紅く色づくのか、何故屋根は三角形なのか。生活をしていると様々に疑問に思うことが出てきます。

PMSで働きはじめて数カ月ですが、一番楽しいのは川の事、水の事を考えることです。中村先生がクナルル河やカーブル河とやり取りしてきた取水方法。その方法を通して、何故？を読み解く努力をする。何故楽しいのか、これが取水門の作り方を勉強しているのなら、話しは少し違ったと思っています。

私は幼少期、毎日川で遊んでいました。小遣い銭を稼ぐ方法はスポンを売る、なまずの幼魚を探していると聞けば、つかまえて小遣いをもらう。

川にはカワニナ、地元ではホウゼと呼んでいる貝がいます。巻貝の一種で、蛸の餌になる貝です。夏になると祖母とホウゼを獲りに行き、バケツ一杯に獲って帰っていました。毎年そのようにしていましたが、コンクリートで護岸され、一〇〇匹獲っていたカワニナが、一〇匹獲るのに一苦労するようになり、子どもながらもにショックでした。なにかが変わってしまったのだと、魚が身を預ける岩穴も、深い水たまりも、岸の形も、私知っている場所ではないのです。ずっとあるものだ、ここは俺の場所だ、と思っていた場所が別の場所になったようで、とても寂しかったのです。

できることならカワニナや魚、トンボや生き物も一緒に生活できる川であってほしいと思います。

カワニナがいなくなった理由を考えると、一つには、護岸したことにあると思います。一般的にコンクリートは水を通しません。同時に養分も遮断すると考えられます。この場合、自然との接点はなくなり、ある線が引かれるのです。幼少期の出来事ですが、頭を整理するとそうなのかな、と

サファル・バヘル！（良い旅を）

甲斐大策

26

林檎の樹は今夏も掌に余る実を無数につけ、枝先を揺め紅色の光を放つ。

両親の故郷、ジャージー村アヘル族の五長老の一人、ナジの長男の元へザフリが嫁いだ三十年前、婚礼は太鼓の響きと銃声に包まれ、全ての嫁ぐ娘達と同じくザフリも、涙にくれつつ未知の酷刑を待つのに似た恐怖に自失、林檎の樹の有無などは記憶にない。ただその時、暗い控えて披露を待つザフリの元へ義母が、黄色の香草を添えた搾り立ての林檎汁を満たした鉄のコップを運んでくれた。その汁はザフリの胸の奥までを潤し、以後、林檎が色づく度に、その時の安らいだ一瞬を思い出してきた。

ザフリの父は、カーブルのタクシー運転手だった。旧市街の小さな借家で生れ、旧ソ連軍の侵攻を逃れてジャージー村へ向う迄ザフリは借家周辺しか知らず、また、連日空爆を受けていた村での滞在も叶わず、祖母、両親、兄、妹の一家は、パキスタン側へ流出、コハトの難民地区へ流出する。ザフリは十二、三歳だった。十八歳で結婚、三児を失ない二児を得る。その頃コハトで父が他界、しかし葬儀への参加も墓参も果たせなかった。ドバイへ出稼ぎ中の兄の帰国も叶わなかった。

カーブルは騒音と臭気、ジャージー村と脱出行は爆撃の恐怖と乾き、コハトは想像を超える酷暑と飢えの記憶をザフリに残した筈だったが、そして常に高低は兎も角、泥塀がザフリと外界を隔てて自由とは無縁の人生と思わせてきた筈だが、今、ザフリは亡父と母に做って敬虔な祈りを欠かさず、長老家の女主人として笑顔を絶やさない。

この日、兄はドバイで二十六年間蓄えた資金や物と共に、老母他の一族を率いて村に戻る。泥塊と化していた実家の再建にかかる。

* ベシャワール南方三〇km、旧街道の要衝

医者、用水路を拓く

アフガンの大地から世界の虚構に挑む

中村哲 用水路建設事業の7年をつづけた感動の記録 【5刷】1800円

辺境で診る辺境から見る

【5刷】1800円

医者 井戸を掘る 【12刷】1800円

医は国境を越えて【7刷】2000円

ダラエヌールへの道

【5刷】2000円

ベシャワールにて 【8刷】1800円

アフガン農業支援奮闘記

高橋修・編著 2500円

聖愚者の物語

甲斐大策

1800円

石風社 福岡市中央区渡辺通2-3-24
電話092(714)4838

人は愛するに足り、
真心は信ずるに足る

アフガンとの約束 2000円

中村哲／澤地久枝(聞き手)

岩波書店 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
電話03(5210)4000

天、共に在り

アフガニスタン三十年の闘い

中村哲 1600円

NHK出版 東京都渋谷区宇田川町41-1
電話03(3464)7311

価格はすべて本体価格(税別)です



ジャララバード事務所でジア医師や現場監督、会計職員たちと昼食を摂る東ワーカー(左から2人目)

思います。

現場で蛇籠を見てきた

現地、アフガニスタンのジャララバード

に行ってきました。滞在は短かったのですが、クナル河をみて、カシマバード堰(ベスード第一堰)、沈砂池、ダラエヌールクリニック、ガンベリ農場、マドラサ、学校、ミライン堰、カマ堰を目にすることができました。

現地滞在は数日でしたが、二つの事に触れさせていただけます。

一点は、現場でも事務所でもチームワークの良さを感じます。自分たちの仕事为谁のために、何になっているのか、僕は教えてもらったのです。

もう一つは護岸工法です。PMSでは用水路は蛇籠で、大河川クナルには巨礫で護岸していました。安全かつ長い間機能し続ける工法であるにもかかわらず、生物にとって、どちらも隠れ処があり、大小様々な生物が生息できるのは想像できるところ

です。

人の手が加わってもなお、陸と川に接点があるのです。コンクリートで固めないから陸地の土から川への養分が遮断されず、また植物も根を伸ばし川から水を摂ることができず。本来、川辺には葦などが生え、根が張りめぐり小さな生物が生息します。昆虫もいれば蟹も、亀も、魚も、鳥も生息するものです。私は蛙ではないので真意はわかりませんが、私が蛙なら嬉しいと思います。

中村先生が、どのように河や自然と人の生活を結んでいるのかを学習し、考え、予想し、答え合わせをする。合っていれば勿論嬉しいです。自然を読み解こうとする。そこに楽しさがあるように思っております。

▼現地活動を紹介するパンフレットをお送りします

*ベシャワール会の活動をご紹介されるときに
お使いいただけるものです(払込用紙がついて
います)。ご希望の方は遠慮なく事務局に
お申し越し下さい。なお、パンフレット、会
報等は受け取る意思のある方への配布を原
則としております(ポスティング等を行わ
ないこととしております)。パンフレットは
A3変形を四折りましたもので、長形の定形
封筒に入るカラー版です。

●事務局長便り

*現地事業は、中村医師の報告にもありますように「緑の大地計画」の仕上げに向かって進められております。それは、仕上げであると同時にアフガニスタン全土でのPMS灌漑方式展開に向けての準備でもあります。その布石として、PMSではJICA（日本海外協力機構）との共同事業も継続しておりますが、灌漑技術の定着と全土拡大のための人材育成の研修所建設をFAO（国連食料農業機関）との共同事業として着手することになりました。

*現地事業を支えるためのPMS支援室が発足しましたが、七月には、スタッフの東、浦田の両君が初めてアフガニスタンを訪問、現地スタッフとの打ち合わせを行いました。

*九月一日、NHKドキュメンタリーETV特集で「武器ではなく命の水を」医師・中村哲とアフガニスタン」が放映され、大きな反響がありました。この放映で、初めて中村医師と現地事業を知られた方も多く、いい意味で「ショック」を受けられたようです。アンコール放送が決まれば会のHPでお知らせ致します。

●PMS支援室より

現地のドクタージアから現場の作業状況の写真が届けられる。八月にはPMSが手掛けた各地の堰の状況と共に珍しく畑や人々の様子、バザールの変貌などが届いた。目を皿のようにし

てバザールの様子をみた。トマトや玉ねぎ、ナス、葉物、メロンなど溢れんばかりに村の八百屋に置かれている。路上にも並んでいるのを見て胸が詰まった。PMSが二〇〇〇年に緊急対策として飲み水用井戸掘削を始めた頃、作業地を分担し現場に泊まり込みで働いていた蓮岡・目黒・中山ワーカー達から、パキスタン側のPMS病院に「野菜がないのでピーマンやナス等を送ってくれ」とリクエストがあり国境まで何回も届けた事を思い出した。一方、彼らが井戸作業をしたアチンやロダットまではまだPMSの灌漑事業は及んでいない。これから始まる人材育成計画に力を注ぎたい。

◎村から

事務局のお手伝いを始めて一年半が経ちました。PMS支援室、そしてボランティアのみなさんの仕事に対する真摯な姿勢に接し、自分は役に立っているのだろうかと自問自答を繰り返しながら、一步また一步とここまで来たように思います。アフガニスタンでの事業を大きな機械と喩えるならば、その裏には、事業を支える歯車があり、それぞれ大きさや形は違えども、そのひとつずつが重要であるのだと感じるようになってきた今日このごろです。まだまだ新参者ですが、過ぎし来し方に思いを致しながら、これからも錆びることなく回り続ける歯車になりたいものです。(YR)

会 則

- ①本会の名称をベシャワール会とする。
- ②本会は、中村哲医師のパキスタン北西辺境州ならびにアフガニスタンでの医療活動などを支援し、必要な情宣・募金活動とともにワーカーの派遣を行うことを目的とする。
- ③本会は、思想・信条にとらわれず、「支え合い」の精神で一致して会を運営する。
- ④会員は年額三、〇〇〇円、学生会員一、〇〇〇円、維持会員一〇、〇〇〇円の年会費を納入する。
- ⑤会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由なやり方で支援活動を行う。
- ⑥本会は会報を発行し、会報を通じて活動を報告する。
- ⑦本会は若干名の理事、監事を選任し、会の運営を行う。
- ⑧毎年一回総会を開き、事業および会計について報告する。
- ⑨本会の事務局をFARAHOUSE（〒八一〇〇〇二三 福岡市中央区警固二一―一七 ハイツみかげ八〇三号 Ⅱ）〇九二―七三二―二三七二内におく。

総会、現地報告会は、原則として毎年六月第一土曜日に開催いたします。